

県名の由来（中部地方）

1 新潟県

古代からこの地域は高志国（越の国）と呼ばれていた。明治維新と廃藩置県の直後には今の県の領域には13もの藩や県が並立していたが、これらが統合して成立した。県名は県庁の置かれた新潟市に由来する。

「新潟」は、信濃川や阿賀野川が氾濫し、河口の中州に沼地を意味する潟が新たにできたが、それを表している。

日本の民俗学を創始したとされる柳田國男は、干潟のことだけを潟というのは、白熊のことを熊は必ず白いというのと同じだと著書に書いている。

2 富山県

県庁の置かれた富山町に由来する。室町幕府幕臣吉見詮頼が越中国地頭職に就いたというのが「外山」の文書上での初見といわれる。

「富山」となったのには、以下の諸説がある。

- ① 越中守護所があった御服山（呉羽山）の東端の麓（射水市）から見て外側に位置することから「外山」の字が当てられた。
- ② 立山連峰を仰ぐことができ、山に富んでいることから「富山」とした。
- ③ 元々は藤居山という地名だったが、富山寺（ふせんじ）という寺があったため、富山と呼ばれた。
- ④ 深山に対して外山（とやま）と呼ばれた。

3 石川県

古くからあった石川郡美川町に県庁が置かれたことに由来する。

加賀地方は石川郡と呼称されていたが、県最大の河川である手取川の古名が「石川」であり、文字通り石の多い川だったという。

4 福井県

江戸時代に城が築かれた北の庄という地名の「北」が敗北につながるとして「福居」となった。その城下町の名前が「福井」に改称されて、県庁が置かれたことに由来する。

5 長野県

長野村に県庁が置かれたことに由来するが、長野とは扇状地の長い傾斜面につけられた地名とされる。

6 山梨県

果物のヤマナシが沢山採れたからとか、山をならして平地になった「山ならし」から来たとかの説のほか以下の諸説があるが、甲府県を山梨県と改名した理由は、はっきりしないと山梨県史に記載されている。

- ① 国司の役所が平地に建てられた。
- ② 甲斐に梨の木が多くあった。
- ③ 献上梨の産地の近くの神社の名前である。

7 静岡県

シズオカの「シズ」は静岡浅間神社の裏手にある賤機山に由来するが、「賤」は賤しいに通じることから「静岡」とした。

江戸時代には府中と呼ばれていたが、府中という名称が特定の地名を指していなかったため、明治政府が採用した。

8 岐阜県

織田信長の命名とされ、美濃国を攻略した際に稲葉城下の井口をギフと改めたというが、以下の諸説もある。

- ① 雨水を呼ぶ峻険な山を意とする「岐」と盛り上がった高い所を意とする「阜」を合わせたが、「岐阜」は山地と下流域を潤す豊かな水をたたえた河川とがある山紫水明の地なので、この地に相応しい地名とされた。
- ② 僧侶の沢彦宗恩が岐山（殷が周王朝に変わるとき鳳凰が舞い降りたとされ、周の文王がこの山で立ち上がり、その八の基を築いたという伝説がある）と、曲阜（孔子が生まれた儒学発祥の地）を一つにした「岐阜」という地名にし、太平と学問の地であれとの願いを込めた。
- ③ 古来岐府、岐陽、岐山、岐下と信長の以前から使用されており、稲葉山城のあった稲葉山を岐山、里を岐阜と呼んでいた。

9 愛知県

「年魚市潟」の「あゆち」が「あいち」に転じたと言われており、県庁が愛知郡の名古屋城に置かれたことに由来する。以下の諸説もある。

- ① 万葉集には「年魚市」、「吾湯市」qと書かれており、奈良時代以前は、名古屋市南部を「あゆち」と呼んでいたらしい。
- ② 平城宮跡からは「尾張国阿由市郡」の木簡が見つかった。
- ③ 古代の熱田台地は半島になっており、周辺が干潟で、その付近を「年魚市潟」と呼んでいた。
- ④ アユが捕れる所とか、「あゆ」には湧水や幸いを運ぶ東風を表すという説もある。